

# 武家名目抄稿

弓箭部

四

四 九 冊	中 四 九 冊	二 五 二 〇 六 號	和 書 門
冊	架	函	類

庫	文	閣	内	
一 五 三 函	四 五 之 冊	二 五 二 〇 六 號	和 書	類
架	冊	號		

内閣文庫	
番號	和 25206
冊數	457 (286)
函號	153 275



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





武家名目抄稿第四冊

弓箭部二下目錄

七	尺	尺	尺
寸	寸	寸	寸
分	分	分	分
厘	厘	厘	厘

十所藤

尺藤作

七ヤウトウ作





纏弓

絲裏弓

樺卷

末々岐弓

又稱  
真卷

草卷夕ル弓

草所々卷夕ル弓

節卷

小節卷

節藤

太平弓

世平弓

七張弓

八張弓 今无

九張弓 今无

九錫彫弓

角弓







太平記云 公家一統 大塔宮ノ御憤モ散シ

ケルニ又六月十七日志貴ヲ御立有テハ

幡ニ七日御逗留有テ同二十三日御入浴

アリ宮ハ 略中 白篋二節陰、  
ク、イ、  
利

ヲ以矧タル征矢ノ三十六指タルヲ苦高

ニ負成ニ所藤ノ弓ノ銀ノツク打タル十

文字ニ拳テ

又云 本間孫四郎遠矢餘 將軍本間カ矢ヲ取出シテ

此矢本ノ矢所へ射返サレ候へト被レ仰ケ

レハ顯信畏テ難レ叶由ヲソ再三辭シ申ケ

ル將軍強テ被レ仰ケル間辭スルニ無處シ

テ已カ船ニ立帰り火威鏡ニ歛形打タル

甲ノ緒ヲ縮銀ノツク打タル弓ノ反高ナ

ルヲ帆柱ニ當テキリミト推張船ノ舳

崎ニ立顯テ弓ノ弦クヒシメタル有様誠

ニ射ツヘクッ見ヘタリケル



又云 山門 攻條

相馬銀ノック打タ

ル弓ニ普通ノ弓四五人張并タル程ナル

ヲ左ノ肩ニ打カクテ金礮頭ニツ篋撓

ニ取添テ、撓直シ瓜ヨリテ云々

桂川地藏記云弓者中三人張五人張彌打

弓。

七曲ニタル弓

長門本平家物語云 橋合 我条宮北西方山三井

寺はあく僧法ゝるの志ぶう妙めいーむ

と云者自門他門のさきとる者あり揚

の上は手こそむりいれめいーめん事を

好々装束とる禍色のよろいむきにく

るをとおしはたあゝ免のよろい子くらは

そのそや廿四時たるをりーらたかふた

ひふして七曲一たるくらぬりのろもち三

尺五寸はた刀にらまのかをれいりさや入



さけえいより

源平盛衰記云

宇治合戦條

寺法師筒井ノ浄妙

明春ト云者アリ中畧クロスリノ箆ニヌリ

ノニ黒ツ羽ヲモテハキタル矢ノ廿四サ

シタルヲ頭タカニ負ナシツ、七モチリ

ナルマエミノシメ漆ニヌリタルニ漆ツル

カケテ真中ヲトリ云々

前九年合戦繪卷物





劔樋搔タル弓

太平記云 山門 攻條 本間ト相馬ト二人義貞ノ

御前ニ侍ケルカ熊野ノ人共ノ真黒ニ裏

ツレテ攻上ケルヲ遙ニ見下シカラシ

ト打笑今日ノ軍ニハ御方ノ兵ニ大クヲ

モ拔セ候マシ矢一ツヲモ射サセ候マシ

我等二人罷向ヒ一矢仕テ奴原ニ膽ヲツ

フサセ候ハント申最閑ニ座席ヲソ立夕

リケル猶モ弓ヲ強ク引ニ為ニ著タル鎧

ヲ脱置テ服立計ニ大童ニナリ白木ノ弓

ノ今川家毛利家西源院天正本云 白木ニ劔樋カキタル弓云ク ホコ短

ニハ見ヘケレトモ尋常ノ弓ニ立雙ヘ夕

リケレハ今二尺餘ホコ長ニテ交高ナル

ヲ大木トモニ押矯エテニト押張白鳥

ノ金勝院木作鶴 西源院木作鶴 羽ニテ作タル矢ノ十五

束三伏有ケルヲ百矢ノ中ヨリ只二筋按



六弓ニ取副ソニ口歌ウ夕フテ開ク下向  
ノ尾ハ渡レハ云々

相摸國 鎌倉 鶴岳 八幡宮 藏

相傳云 鎌倉  
右幕下ノ弓

真鍮

真鍮

長六尺四寸五分 漆

握目十二尺八分 開如圖







本間流間書云。志。心。く。と。う。作。の。り。と。り。ふ。一  
尺。と。と。下。着。を。つ。う。ふ。を。云。然。と。尺。着。は。く。り  
といふ也か。ふ。う。の。そ。き。て。留。を。一。尺。の。置。て。巻  
へ。き。也。矣。を。り。の。常。の。と。く。成。一。一。と。は。は。り  
ヒヤウトウ作

又嶋守紙云。大将と。お。わ。し。起。人。の。そ。と。ふ。ハ  
何。を。ら。め。さ。せ。を。ん。大。と。ち。の。そ。を。た。り。と  
お。つ。あ。る。知。の。花。お。と。し。の。よ。ろ。い。を。め。し

あ。し。う。ち。急。ふ。し。お。つ。ふ。て。白。あ。や。を。む  
て。右。ち。満。き。ま。あ。づ。と。し。め。ひ。や。う。と。う。は。く  
聖。乃。五。人。を。里。の。あ。ん。中。ふ。せ。り。手。矢。を。か  
り。お。つ。ま。る。云。々

經弓

扶桑略記云。寛平六年九月五日對馬馬司  
言新羅賊徒船四十五艘到着之由大宰府  
同九日進上飛驒使同十七日記曰。中。所。取



雜物大將軍縫物甲冑貫草袴銀作太刀纏。  
弓。草胡籙突夾保呂各一具已上附脚カ多  
米常繼進上

絲裏弓

判官物語云

五 吉野山  
合戦條

川つゝ此不うらんを

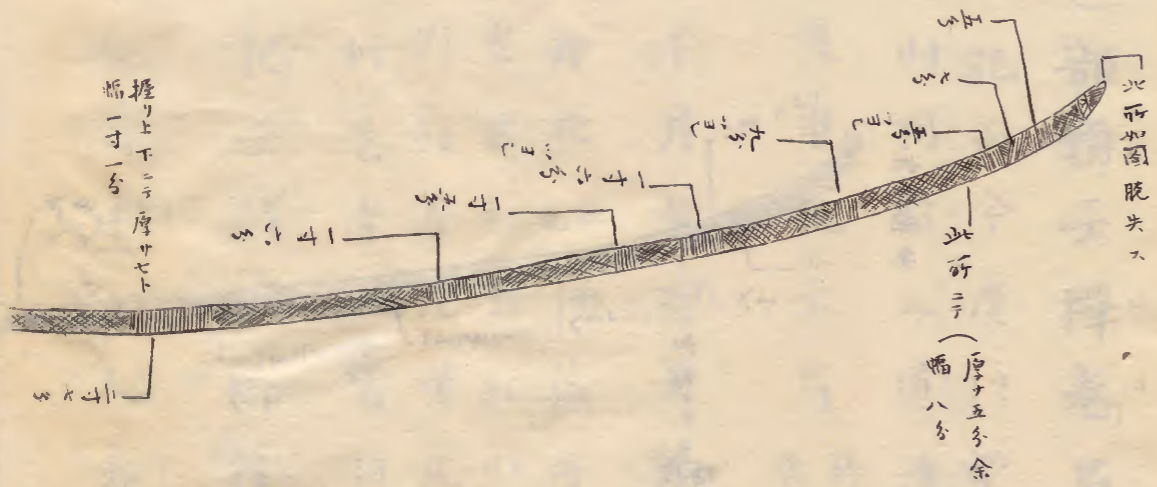
の目れもんでい世人をうし 誨しくゝにうま  
まひてしちくろうし 誨よりそのまけ六尺  
をりりある不うし 此きハめまいるくろり

りきさう志やうそくもまつくろにそまじり  
くるさうつゝ志いらのやふをり志んーや  
うあ日にぬりイつるれ子くろをまつそいさる  
ふれのふとまハふえ竹あれと此屋うあ白  
うれま記よりつゝ十四そくにうまくときり  
いさをつゝいさしにさしてあしら多りにね  
ひなしつゝいせれ目これ九尺をりり有る  
口人そりをつえまはまふしホホのそり



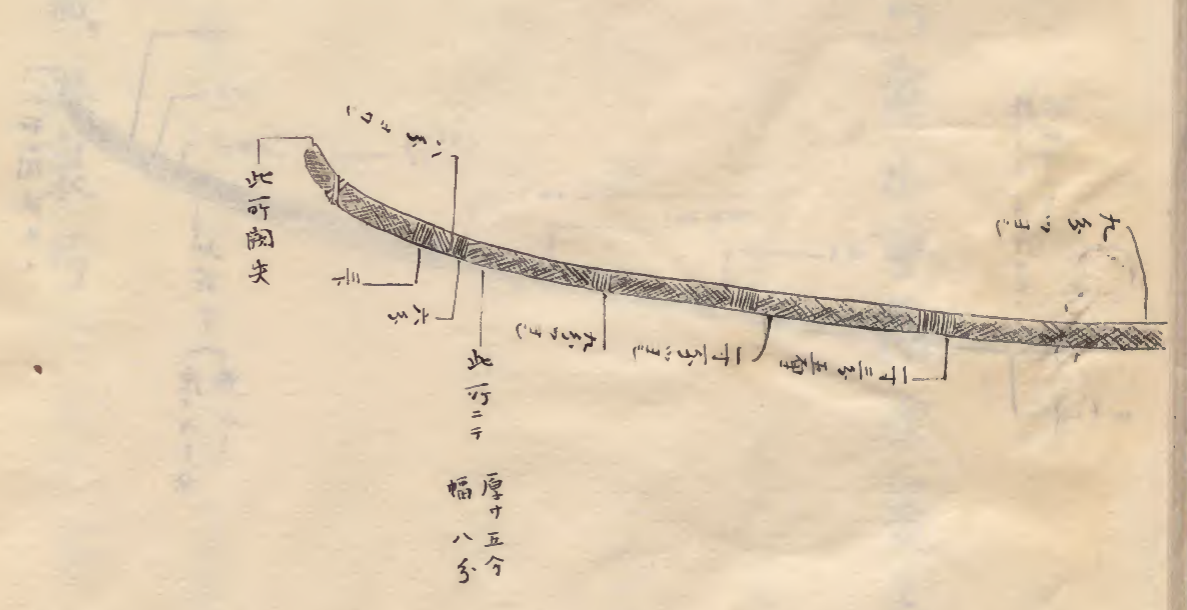
了中  
 庭訓從來云弓者本重漆塗籠糸裏等也加  
 弦卷畢

本多甲馬家藏縁裏弓





樺卷



御襖行幸服色部類云樺卷弓

左卷種組右卷種組常ノ

例也又見之記而今度以紫草替種組黑  
文草替種組是則周防入道清實朝臣日記  
云大夫尉義経畏申記云弓  
卷繪卷白樺  
卷組等

又云寛元四年十月廿四日陽龍記云次隨

身六人 師子鬘繪袍色無彩  
半比下重濃打衣紅打無文懸緒茅

脛巾草襪皆如例劔着左筆尻鞘弓卷樺  
樺并緹組取柄卷青地驚羽青緹丸緒

又云寛治大府記云殿下御後令供奉給餅

馬御隨身内舍人府生一人番長四人舍人



十人 左右各五人 已上裝束 畫 左右 師 子 文  
籜 左 驚 羽 古 下 襲 右 柳 脚 末 濃 袴 右 左 青 籜 芳 平 胡  
尻 右 鞞 左 赤 文 皮 濃 擣 衣 市 比 胫 中 草 襪 淺 沓 等

末々 岐弓 又稱 真卷

倭名類聚抄云細射唐鹵簿令云細射弓箭

今按此間云末 岐由美是也

園太曆云文和五年三月廿七日先日或人

相尋真卷弓事引勘今日遣返狀了正後勘

續之康和三年正月十八日左近次將 相具 弓矢

不持笏依 真卷弓矢也此弓不限大將

尋先日或人被尋云真卷弓卜号、何様哉

或說小弓欵或大弓戈學區也愚存如何云

予所存真弓卷籜及梓弓之真卷近代以

紙香籜梓欵

次將裝束抄云射禮賭射弓場始例束帶相

具弓矢 真卷弓矢也件 弓付 鞞 弓懸



夫木抄琳賢法師

い。う。ふ。を。ん。す。の。の。ら。は。と。か。す。き。ハ。川。を。考

川、あ、い、ぬ、ん、を

草卷タル弓

今昔物語云今昔信濃國、十九、ノ郡ニ、ノ

湯ト云フ所有リ諸ノ人薬湯也トテ來テ

浴ル所湯也而ル間其ノ里ニ有ル人夢ニ

見ル様人來テ告テ云ク明日ノ午時ニ觀

音來リ給ラヒ此ノ湯ヲ浴ミ可給シ必ス人

結縁シ可來ト此ノ見ル人問テ云ク何様

ル<sup>ナ</sup>娑<sup>テ</sup>來<sup>ハ</sup>給<sup>ム</sup>ト<sup>ル</sup>為<sup>シ</sup>告<sup>ル</sup>ク人來テ云ク

年四十許ル<sup>ナ</sup>男ノ鬢ケ黒カキ綾藺笠ヲ著テ

節黒ル<sup>ナ</sup>大胡録ヲ肩テ草卷ル<sup>タ</sup>弓持テ紐ノ

水旱ヲ著テ夏毛ノ行騰白、ノ履テ黒

造ノ太刀ヲ帶テ韋毛ノ馬ニ乘テ來人有

ル<sup>ラ</sup>其<sup>レ</sup>必<sup>ス</sup>觀<sup>音</sup>ト知<sup>リ</sup>可<sup>奉</sup>ト<sup>レ</sup>告<sup>ル</sup>聞<sup>ト</sup>ク



思程ニ夢ノ覺ノ驚キ恠テム云ッ

草所々卷タル弓

今昔物語云平維茂討藤原諸任語云餘五

出立トテ中略征箭卅許上指馬勝二並指夕

ル胡録ヲ肩テ手太キ弓ノ草所々卷タル

ヲ持テ打出ノ太刀

又云東人通花山院御門語云院ハ寢殿ノ

南面ノ御簾ノ内ニテ御覽ニケルニ年廿

餘許ノ男ノ鬢黒ク鬢クキ吉キカ顔少シ

面長ニテ色白クテ形チ月々シ中略節黒ノ

胡録ノ尸跨ニ並征箭四十許差タルヲ肩

タリ簿ハ塗蚕簿ナルヘシ黒ク、ハ、

見エ猪ノ片股ヲ履タリ草所々卷タル

弓ノ太キヲ持タリ

節卷

平治物語云内裏御さまのうきよーともし



やう。祢ん。三十七。界中。くら。ほ。え。の。や。に。い。ひ。し。ま。  
き。乃。ゆ。い。も。あ。る。くら。ほ。さ。け。あ。る。る。に  
けり。くら。くら。を。取。る。そ。目。華。門。り。ひ。つ。と  
て。さ。し。

源平盛衰記云 齋尾三郎一 柿衣ノニ同色

ノ袴節卷ノ弓ニ猿ウツホ鹿ノ矢アマタ

指テ半物ノ、サヲソ、キタリケル辨慶

ニ相具シテ参タリ

判官物語云 任者大物 くりと記をすてにちり

つきぬあられ物をものゝたのふあつてさ

記をつりすつりいひやと甲 中 うすへうたや

廿四さしたる神うらうらにおひふしてうま

は大のうらう二えさしうりきる あ。ま。さ。は。

あ。い。も。あ。て。届。さ。記。ま。ほ。つ。さ。ち。あ。り。き。り

畧本記云物。巻のら。ハ。ま。急。ふ。し。か。ふ。し。と。し

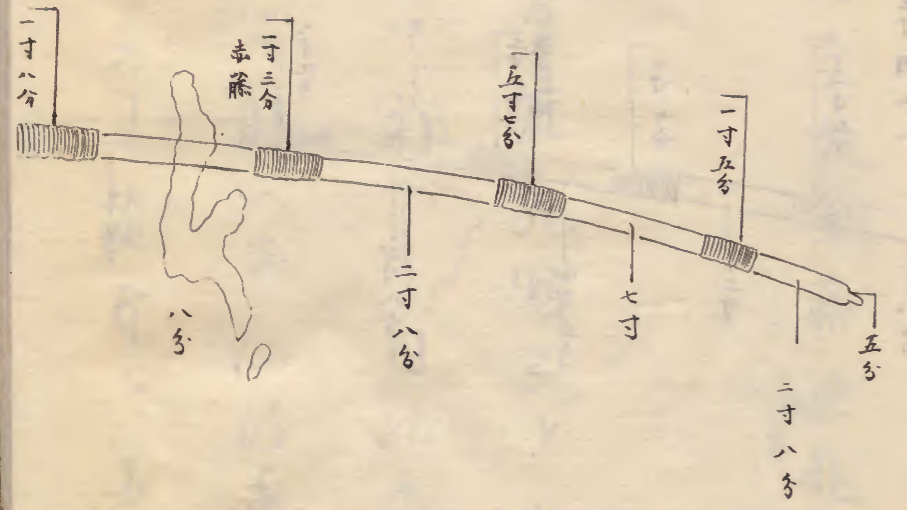
ふ。ま。く。し。前。方。斗。人。の。ま。く。る。は。じ。ろ。し



乃法私書云弓ヲ節卷。又ハ段々ニ赤漆ト  
 黒ナトスルモアリ何モ其人ノ好ミニ依  
 テカシラヘ藤ヲタニ矢スリカフヲ藤ニ  
 ツカヒタラハ大笠懸ヲモ射常ニハ馬上  
 ニテモ持也藤ヲヌル事略儀也神事笠懸  
 ナト射ヘキ弓ハ必白藤ヲツカフハシ  
 家中竹馬記云節卷を巻てぬれえおもきと  
 て漆斗りて候ふぬりゝる也節卷と云ふ

松浦某家藏節卷弓

相傳源三位頼政  
 松浦ヲ射タル弓也



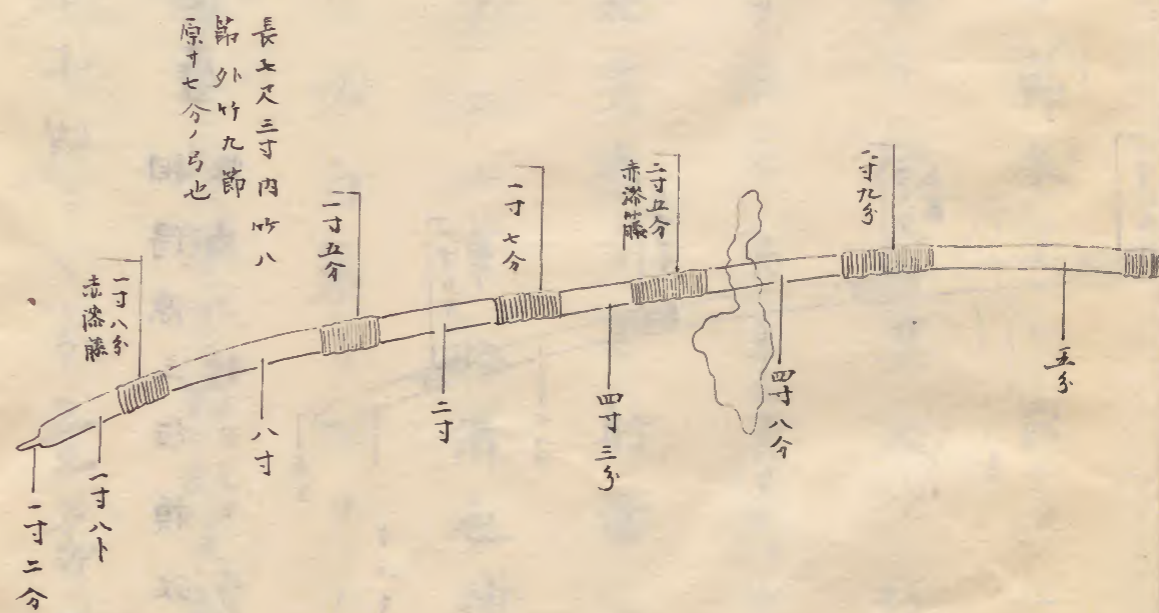


小節卷

桂川地蔵記云弓者重藤節卷真弓鎚藤白  
木赤漆小節卷腹真弓木重藤塗籠藤

節藤

園的圃書云的校物草鹿丸物ふとハ白末々  
は木むふふふふとふて射ハし自北白木也弓  
のふき時ハぬりらふて射ハ第一心はあり先  
ぬりこめふけとふふハ。後行とふてハ事

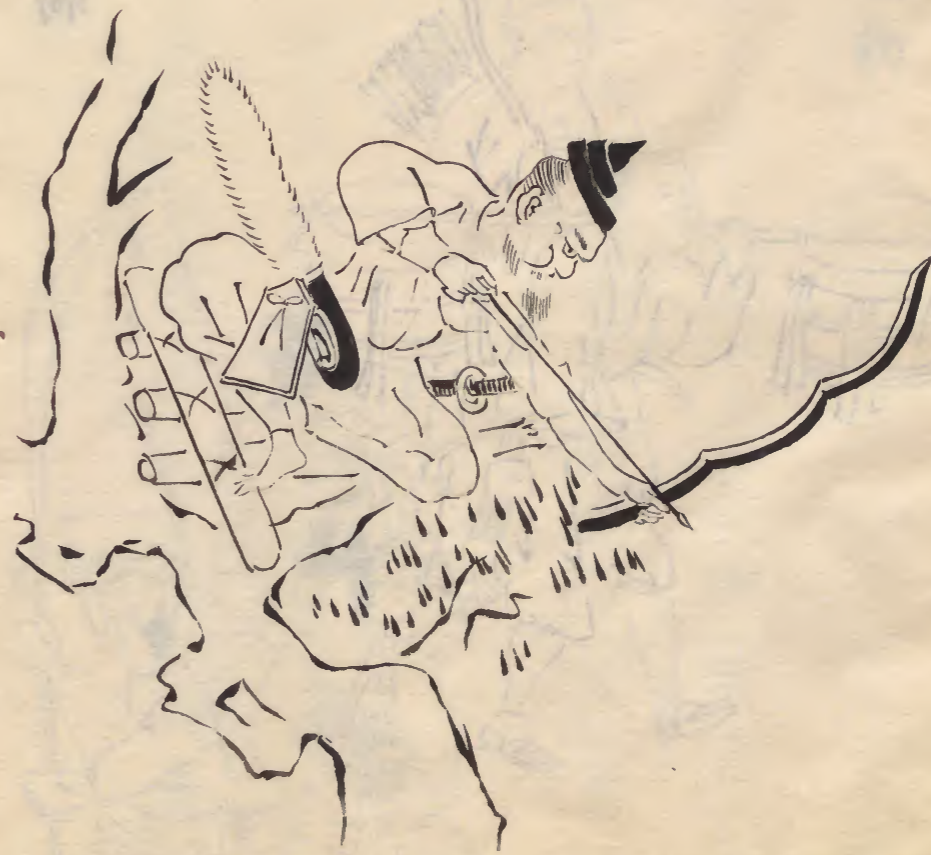








十畝圖



春日新法集卷之四

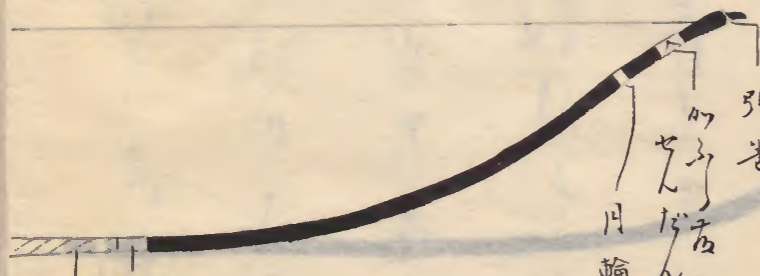
大平弓

當家弓法集云弓ハ大平弓。

八張弓卷云大平弓。

四季ノ  
層是也

引弓ノ  
月輪卷



引弓ノ  
附七九十一



十六折藤  
弓



弓卷

日輪巻  
（か）  
せんらん巻

世平弓  
八張弓卷云世平弓  
感入弓を云也神事  
上洛ふとの時持也

七張弓

甲陽軍鑑云七丁の弓と申ハ多ク此弓  
揚弓志々たい弓滑たうし弓不う急弓  
中ら内弓此内弓と申當時用丁打ら  
の必や其おち弓のたりたあといゆ者つし  
大是と恙とつる地のわく、あなり



九錫彫弓

吾妻鏡云建保六年六月廿一日辛酉午刻

忠綱朝臣令運件調度等於御所御車二兩

檳榔九錫彫弓御裝束御隨身裝束移鞍等

也是皆自仙洞被調下云々

角弓

倭名類聚鈔云角弓爾雅注云弭亡余反都

今之角弓也

日本紀云神功皇斯摩宿禰即以倭人爾波

移與卓淳人過古二人遣于百濟國慰勞其

王時百濟肖古王深之勸喜而厚遇馬仍以

五色絲絹各一疋及角弓箭并鐵鉞四十枚

幣爾波移

續日本紀云天平七年四月辛亥入唐留學

生從八位下上道朝臣真備獻唐禮一百三

十卷中絃纏漆角弓一張馬上飲水漆角弓



一張露面漆四節角弓一張射候甲箭隻平射

平射箭十隻候上

日本後記云弘仁二年春正月壬子御豐樂

院觀射藩客賜角弓射馬

夷弓

吾專鏡云元仁元年二月廿九日去年冬比

高麗人乘船流寄于越後國寺泊浦仍今日

式部大夫朝執進其弓箭以下具足於若君

御方則覽之奥州以下群參弓二張假令如

短似夷弓  
以皮為絃

大平記云足利直冬は大内舊跡大極殿の

額門に此の皮布を懸けしに鎧弓を

矢を、弦を、持せられ象牙、黒草、鹿

子、夷弓、持し、草鞋、差、單皮を、着、せらる

半弓

甲陽軍鑑云上杉家に盗人をとつ或時弓



聲半。弓よりて盗人をひとり射あらしめぬ  
手柄者として別政へ呼出—手習の知行を  
給りしるも三程大将にら奉

土氣城取廢記云竹内右郎左衛門と云者半  
弓之上自ら了片系に隠居て歩立に侍馬上  
に侍拾四五人射殺し無は難手柄仕

義殘後覺云半弓長刀仕合条備後ノ住ニ今枝有

無之丞親重ト云士アリ其譽度々ニ及丁

近國ニ知レリ左レハ幼少ヨリ半弓ヲ好

テ誓古スル丁尋常ナラス年ヲ追テ脩練

セシカハクツキヤウノ上手トナレリ生

年二十七ノ歳武者修行ニ出テ勢州至リ

スエカリヲ尋テ申入ルニ程ニ國司許容

シ玉ニケル去程ニ諸家中打寄テ半弓ノ

雑談ヲ聞テ各弟子トゾ成リニケル

清正記云天正九年六月廿五日いふその因



魯乃城攻乃刻畧森はうちよ梨敵世人  
斗錢追取々出はきえた右海門虎之助  
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
けせえ腰りはるる半うお川と李わぶ敵  
を射るるひく産者情門と言葉錢くく敵  
も半うに射ててき手負あまう出来し  
少志う々た免らふあり言々

東武實録云寛永三年丙寅五月三日鍋嶋

信濃守勝茂半弓二張懸硯二京都二條ノ

御城御庭ニ植ラルヘキ蕪鐵一本ヲ獻ス

ルニ依テ奉書ヲ賜ル

彈弓

倭名類聚鈔云彈弓。唐韻云彈徒丹反去声彈弓俗音暖

宮放丸弓也文字集略云竹弦弓也

弩

倭名類聚抄云兼名苑注云弩音怒和名黃  
於保由美



帝造也

日本書紀云

天武天皇紀

十四年十一月丙午詔

四方國曰大角波良久太小角鼓吹幡旗及弩抛攸抗之類

不應存私家咸叔于郡家

續日本紀云天平十二年十月壬戌詔大將

軍東人令祈請八幡神為大將軍東人言逆

賊藤原廣嗣率眾一万余騎到板櫃河廣嗣

親自率集人軍為前鋒即編木為船將渡河

于時佐伯宿禰常人安倍朝臣虫麻呂發弩

射之

續日本後紀云兼和二年九月乙卯外從五

位下嶋木史真機巧之思頗超群匠欲備邊

近兵自製新弩縱令四面可射迴轉易發是

日大臣以下執政於朱雀門召集諸衛府以

新弩試射之向南而祭唯聞機發之聲不視

失去之影迹其矢所止不得的知



延喜兵庫寮式云造弩一具軍功六百廿三人  
為丁十二人五十分十之廿三  
扶桑略記云寬平六年九月五日對馬嶋司  
言新羅賊徒船四十五艘到着之由大宰府  
同九日進上飛驒使同十七日記曰畧中善友  
立楯令調努亦令亂聲時凶賊隨亦亂聲即  
射戰

武家名目抄稿第四冊

明治十五年七月廿四日舊稿校正 小野由久

同年八月四日再校并書 盛山宗阜

同年同月八日以旧稿本逐一校加朱點畢

塙忠韶



明治十六年八月

校合

鈴木行一







Faint vertical text in seal script, including characters like '合', '本', '行', '一', and '山', which are likely bleed-through from the reverse side of the page.



